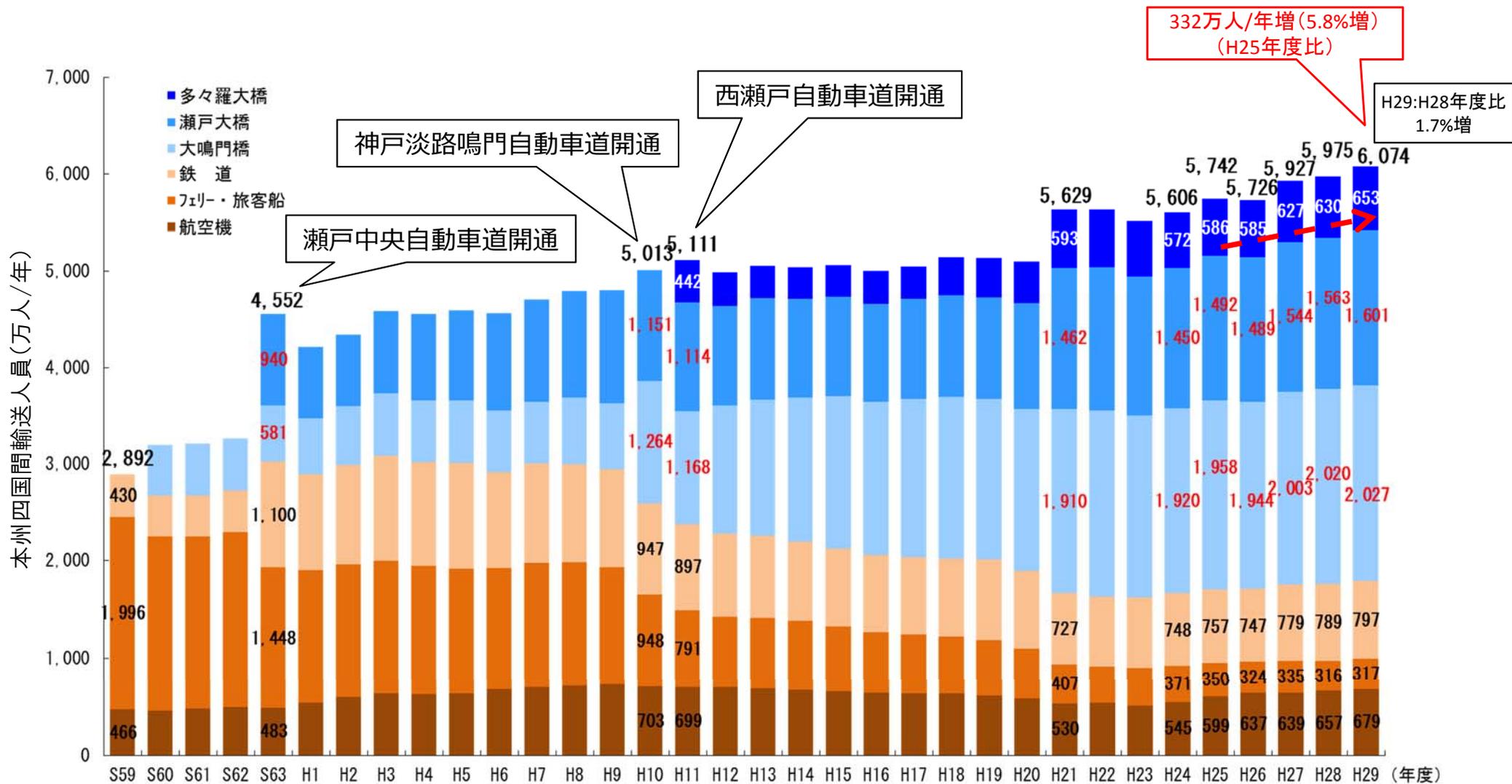


(1)環瀬戸内海地域における
交流状況について

本州四国間の交流(人の交流)

○H29年度の交流人口は6,074万人／年であり、H28年度に対して99万人（約1.7%）増加。
 ○H25年度（協議会目標の基準年）に対して332万人（約5.8%）増加。

◆交通機関別の本州四国間輸送人員の推移



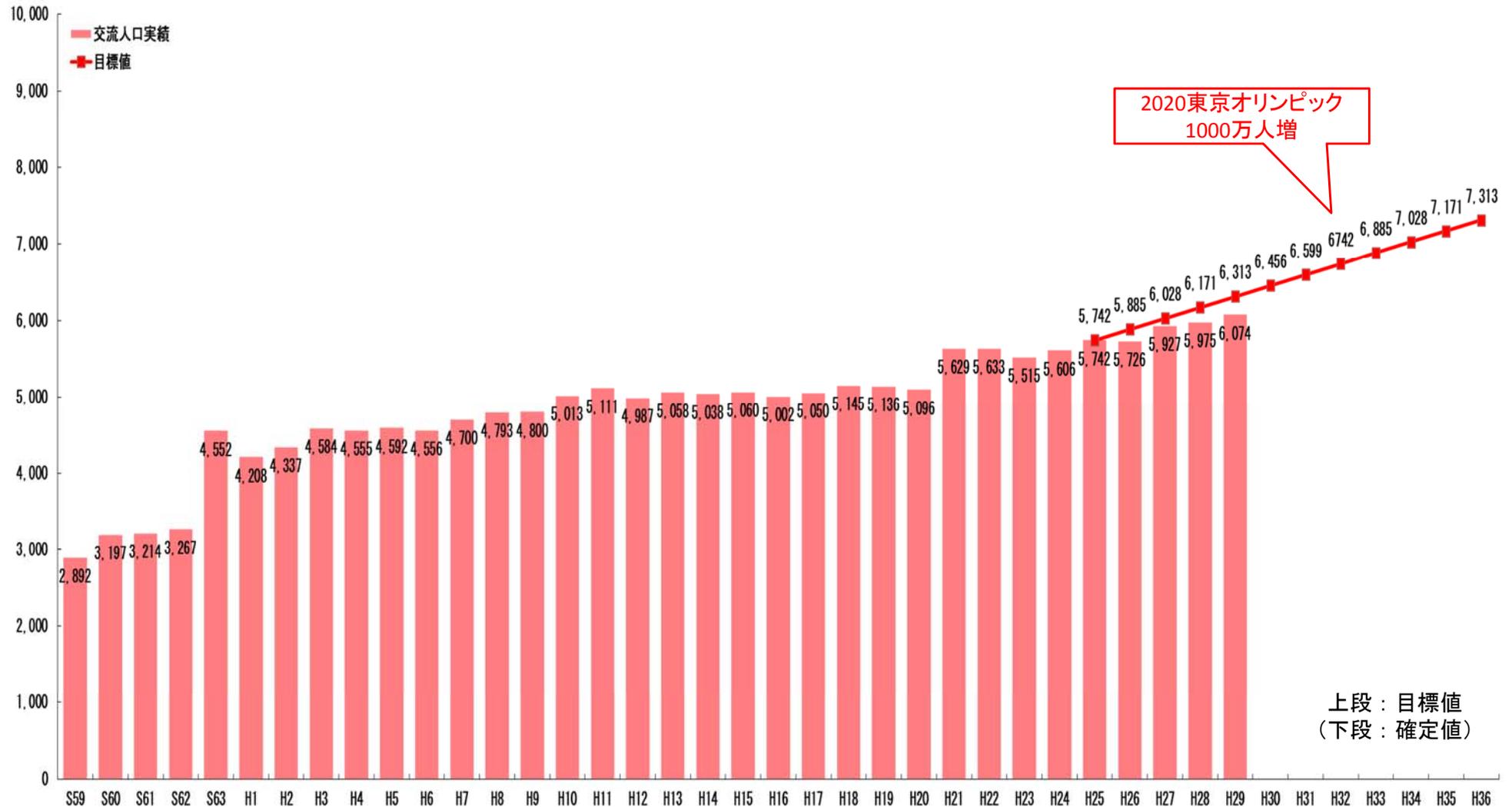
出典) 本州四国連絡高速道路(株)資料、四国運輸局「業務要覧」より作成
 注1: 瀬戸大橋開通(1988年4月)以前の鉄道の輸送人員は、宇高連絡船の利用客開通後は、JR瀬戸大橋線の輸送人員
 注2: 瀬戸大橋、大鳴門橋、多々羅大橋はそれぞれ県境に架かる橋

本州四国間交流人口の達成状況

○環瀬戸内海地域交流促進協議会で設定した目標の達成状況は、平成29年度では239万人実績が少なく開きが見えてきている。

○さらに取組を強化・拡大し、2020年（東京オリンピック開催）までに1000万人増を目指す。

◆交通機関別の本州四国間輸送人員（推計値）の推移



出典) 本州四国連絡高速道路(株)資料、四国運輸局「業務要覧」より作成

注1: 瀬戸大橋開通(1988年4月)以前の鉄道の輸送人員は、宇高連絡船の利用客開通後は、JR瀬戸大橋線の輸送人員

注2: 瀬戸大橋、大鳴門橋、多々羅大橋はそれぞれ県境に架かる橋

本州四国間交流人口の達成状況(県境断面の達成状況)

○本州四国間の交流人口は目標に対し、やや低めで推移しているが、年々増加傾向。
 ○H29年度で見ると、目標に対して実績では広島－愛媛県境のみ達成。

		H25	H26	H27	H28	H29	H32
交流人口(万人/年)		()内の伸率は、対H25(基準年)比					
合 計	上段：目標		5,885(+2.5%)	6,028(+5.0%)	6,171(+7.5%)	6,313(+9.9%)	
	下段：実績	5,742	5,726(-0.3%)	5,927(+3.2%)	5,975(+4.1%)	6,074(+5.8%)	6,742(+17.4%) 2020年(H32)に交流人口 1000万人増加を目標
兵庫－徳島 (神戸・鳴門ルート)	上段：目標		2,007(+2.5%)	2,056(+5.0%)	2,104(+7.5%)	2,153(+10.0%)	
	下段：実績	1,958	1,944(-0.7%)	2,003(+2.3%)	2,020(+3.2%)	2,027(+3.5%)	2,299(+17.4%)
岡山－香川 (児島・坂出ルート)	上段：目標		1,529(+2.5%)	1,566(+5.0%)	1,603(+7.5%)	1,640(+9.9%)	
	下段：実績	1,492	1,489(-0.2%)	1,544(+3.5%)	1,563(+4.8%)	1,601(+7.3%)	1,752(+17.4%)
広島－愛媛 (尾道・今治ルート)	上段：目標		601(+2.5%)	615(+5.0%)	630(+7.5%)	644(+9.9%)	
	下段：実績	586	585(-0.2%)	627(+7.0%)	630(+7.5%)	653(+11.4%)	688(+17.4%)
その他※	上段：目標		1,749(+2.5%)	1,791(+5.0%)	1,834(+7.5%)	1,876(+10.0%)	
	下段：実績	1,706	1,708(+0.1%)	1,753(+2.8%)	1,762(+3.3%)	1,793(+5.1%)	2,003(+17.4%)
【参考】観光入込客(万人回/年)		()内の伸率は、対H25(基準年)比					
兵庫県		7,034	7,399(+5.2%)	7,224(+2.7%)	7,127(+1.3%)	集計中	
岡山県		1,232	1,422(+15.4%)	1,449(+17.6%)	1,740(+41.2%)	1,569(+27.4%)	
広島県		2,344	2,405(+2.6%)	2,310(-1.5%)	2,110(-10.0%)	2,305(-1.7%)	
徳島県		1,044	1,137(+8.9%)	1,010(-3.3%)	1,078(+3.3%)	1,111(+3.1%)	
香川県		1,539	1,712(+11.2%)	1,674(+8.8%)	1,593(+3.5%)	1,485(-3.5%)	
愛媛県		1,311	1,461(+11.4%)	1,497(+14.2%)	1,503(+14.6%)	1,479(+12.8%)	
高知県		590	570(-3.4%)	662(+12.2)	集計中	集計中	

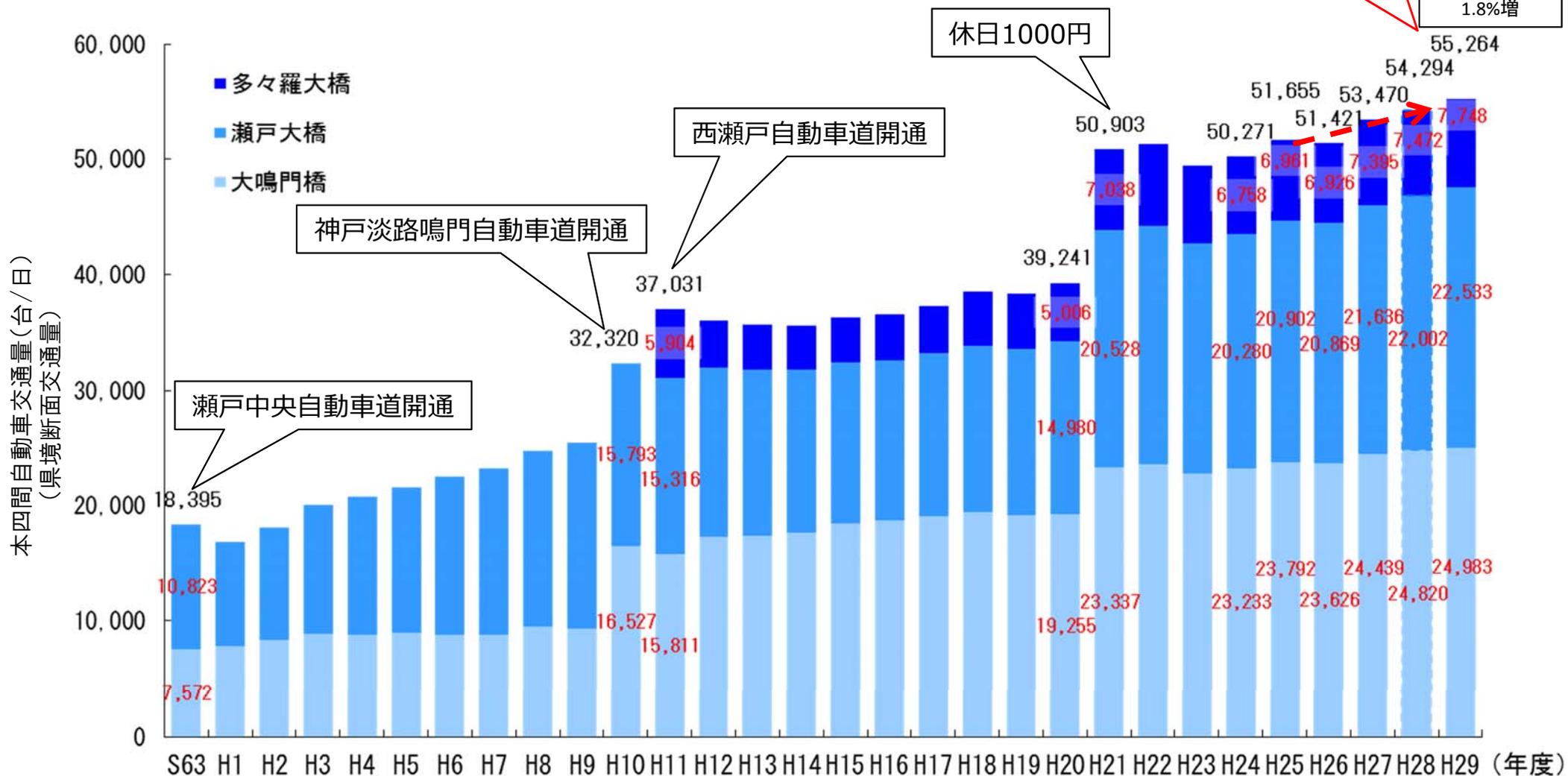
出典) 本州四国連絡高速道路(株)資料、四国運輸局「業務要覧」より作成
 観光庁「共通基準による観光入込客統計」

※鉄道、旅客船、フェリー、航空機による交流人口

交通量の状況（本四間自動車交通量(県境断面交通量)）

- H29年度の本四間自動車交通量(3橋)は55,264台/日であり、H28年度に対して970台/日（約2%）増加。
- 橋梁別でも多々羅大橋が276台/日増、瀬戸大橋が531台/日増、大鳴門橋は163台/日増と3橋とも増加。
- H25年度（協議会目標の基準年）に対して3,609台/日（約7.0%）増加。

◆本州四国間の自動車交通量の推移



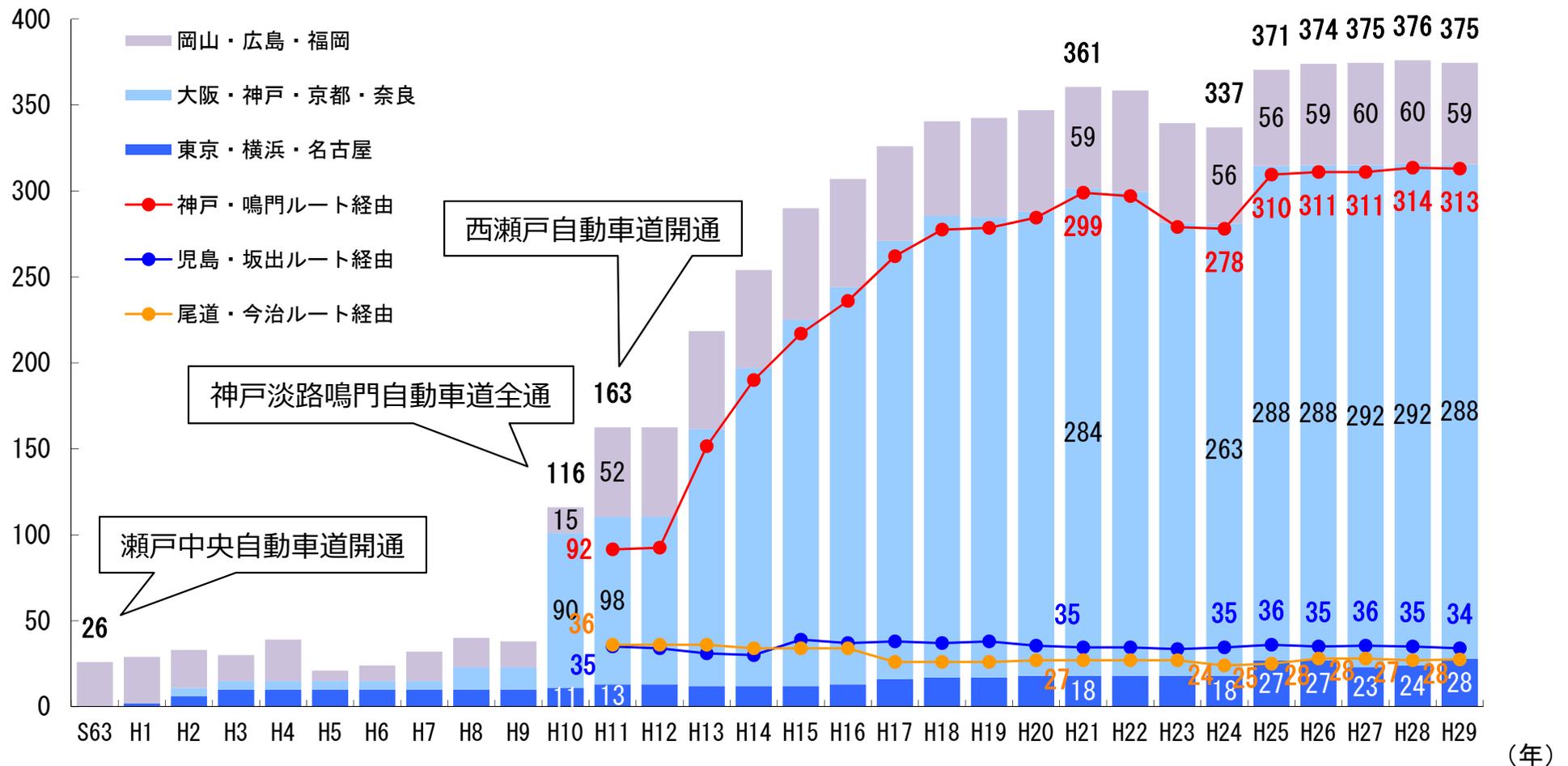
出典) 本州四国連絡高速道路(株)

本四間交通量の状況(高速バス)

- 神戸淡路鳴門自動車道開通後のH10年以降、神戸・鳴門ルートを中心に大幅に増加。
- H29年の本四間高速バス便数は375便/日であり、H28年に対して1便/日減少。

◆本州四国間高速バス便数の推移

(往復便数/日)



平成30年4月以降の交通量の変化（県境3橋合計）

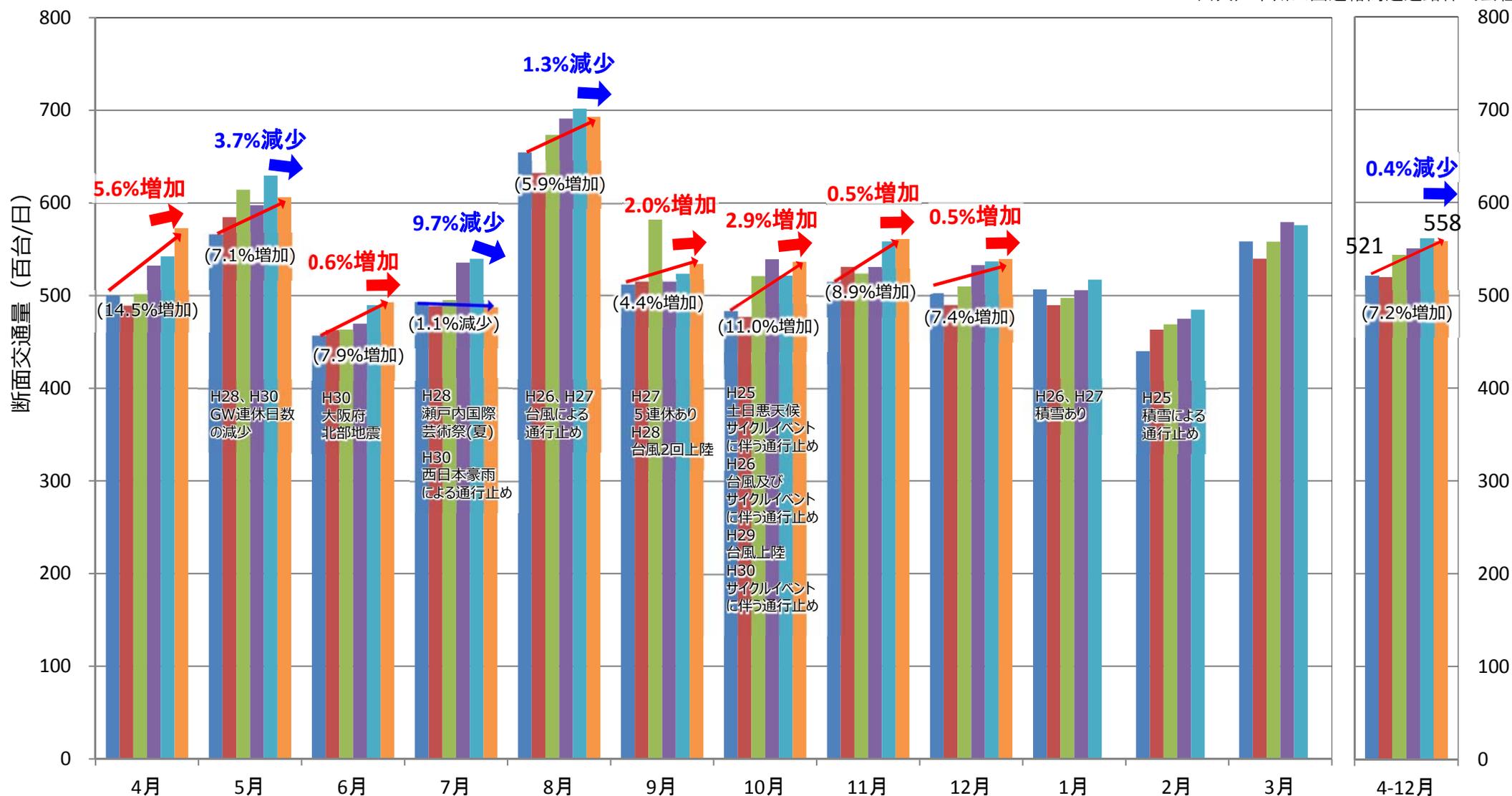
○本四3橋の平成30年度(12月まで)の各月の平均断面交通量は前年度に対し、5月・7月・8月は減少、その他の月は増加しているが、4～12月平均では0.4%減少している。

【3橋合計の日平均交通量の変化

(■ H25年度 ⇒ ■ H26年度 ⇒ ■ H27年度 ⇒ ■ H28年度 ⇒ ■ H29年度 ⇒ ■ H30年度)

※増減率は、H30年度/H29年度
 ()はH30年度/H25年度
 グラフの交通量は100台単位で表示しているため、増減率の数値と合わない可能性がある

出典) 本州四国連絡高速道路株式会社



平成30年4月以降の交通量の変化（大鳴門橋）

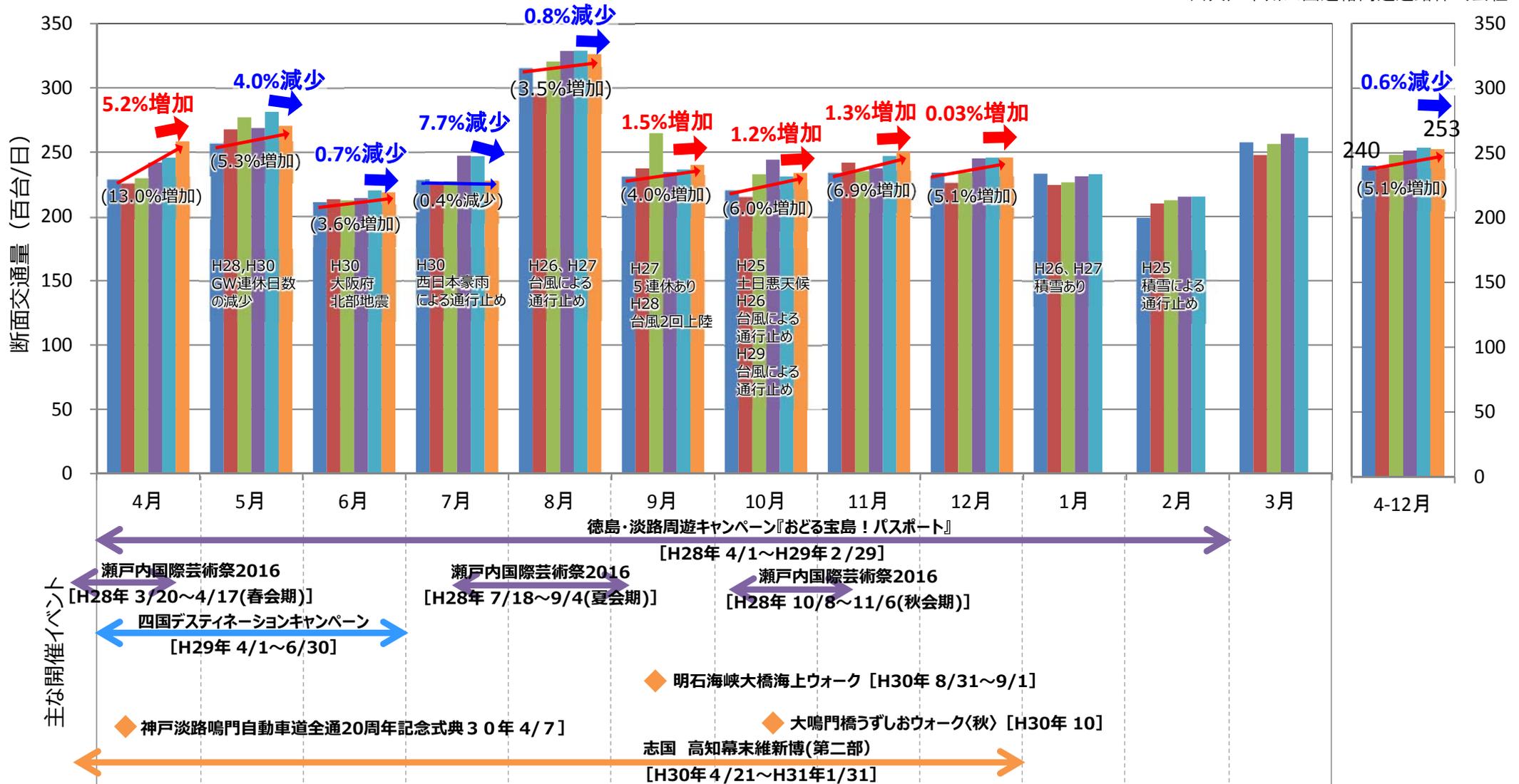
○神戸淡路鳴門自動車道（大鳴門橋）の平成30年度(12月まで)の各月の平均断面交通量は前年度に対し、5～8月は減少、9月以降は増加しているが、4～12月平均では、約1%減少している。

【大鳴門橋断面の日平均交通量の変化

（■ H25年度 ⇒ ■ H26年度 ⇒ ■ H27年度 ⇒ ■ H28年度 ⇒ ■ H29年度 ⇒ ■ H30年度）

※増減率は、H30年度/H29年度
 ()はH30年度/H25年度
 グラフの交通量は100台単位で表示しているため、増減率の数値と合わない可能性がある

出典) 本州四国連絡高速道路株式会社



平成30年4月以降の交通量の変化（瀬戸大橋）

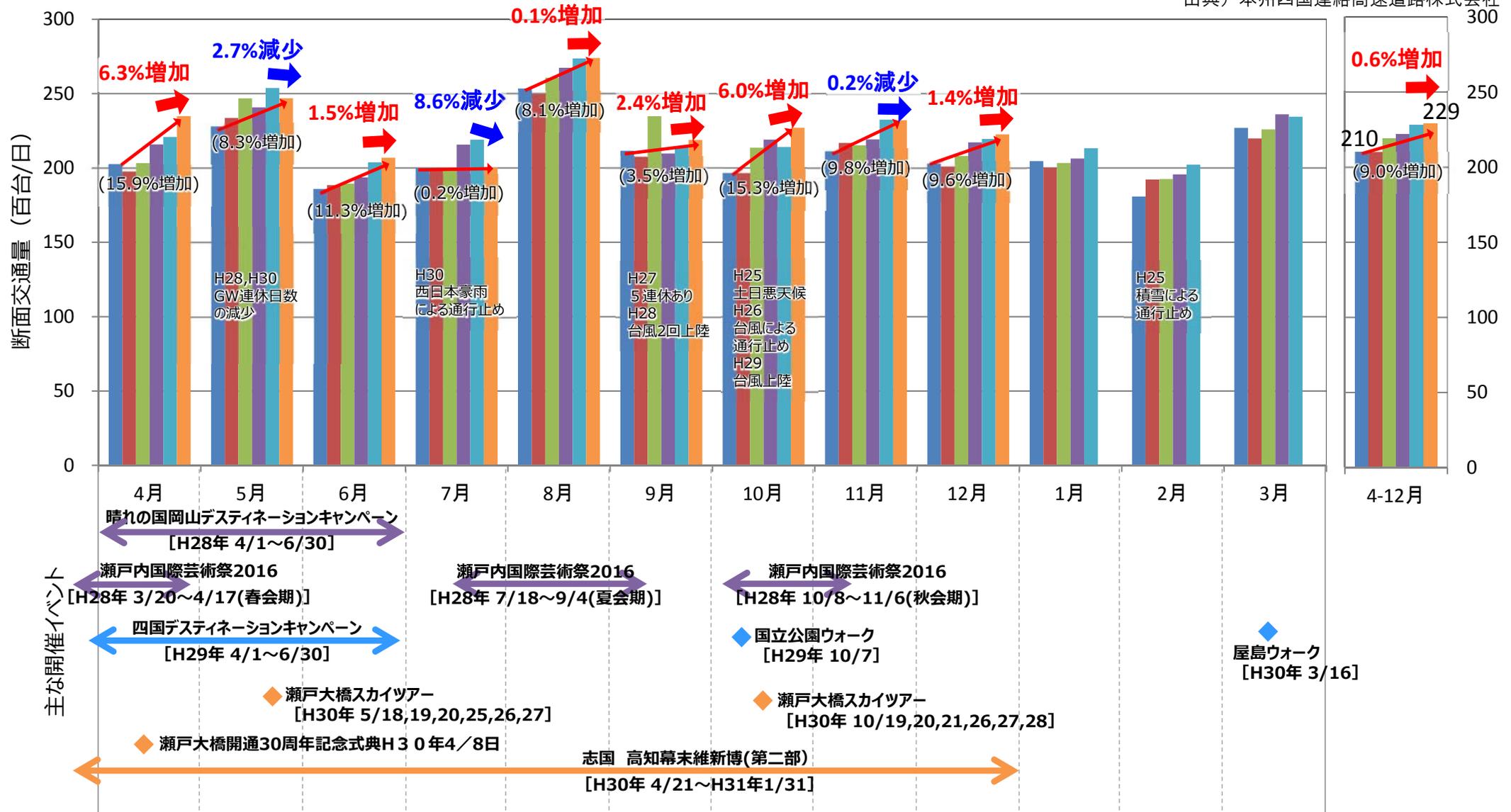
○瀬戸中央自動車道（瀬戸大橋）の平成30年度(12月まで)の各月の平均断面交通量は前年度に対し、5月・7月・11月は減少しているが、その他の月は増加しており、4～12月平均では、約1%増加している。

【瀬戸大橋断面の日平均交通量の変化

（■ H25年度 ⇒ ■ H26年度 ⇒ ■ H27年度 ⇒ ■ H28年度 ⇒ ■ H29年度 ⇒ ■ H30年度）

※増減率は、H30年度/H29年度
 ()はH30年度/H25年度
 グラフの交通量は100台単位で表示しているため、増減率の数値と合わない可能性がある

出典）本州四国連絡高速道路株式会社



平成30年4月以降の交通量の変化（多々羅大橋）

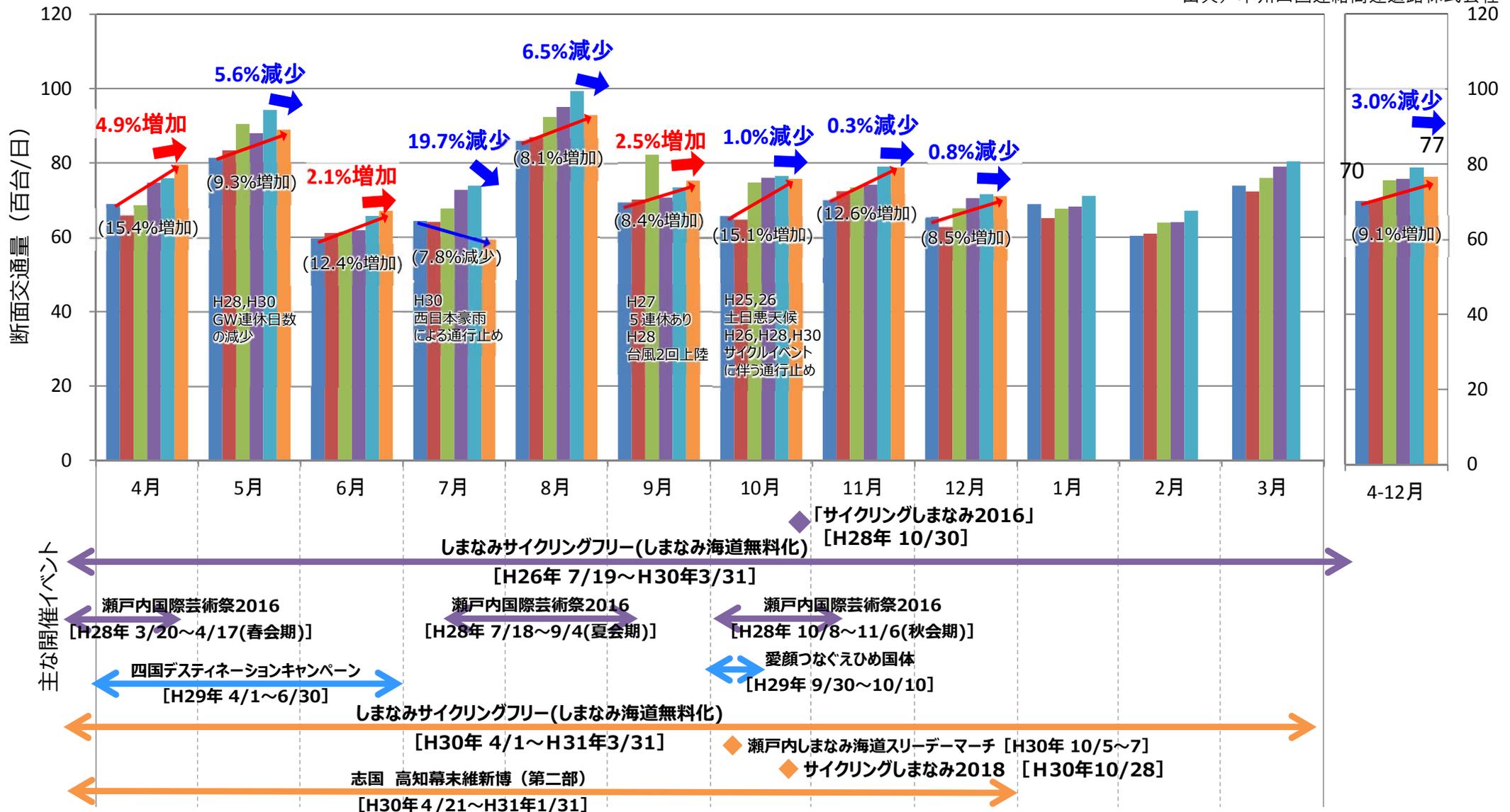
○西瀬戸自動車道（多々羅大橋）の平成30年度(12月まで)の各月の平均断面交通量は前年度に対し、4月・6月・9月で増加しているが、その他の月は減少しており、4～12月平均では約3%減少している。

【多々羅大橋断面の日平均交通量の変化

（■ H25年度 ⇒ ■ H26年度 ⇒ ■ H27年度 ⇒ ■ H28年度 ⇒ ■ H29年度 ⇒ ■ H30年度）

※増減率は、H30年度/H29年度
 ()はH30年度/H25年度
 グラフの交通量は100台単位で表示しているため、増減率の数値と合わない可能性がある

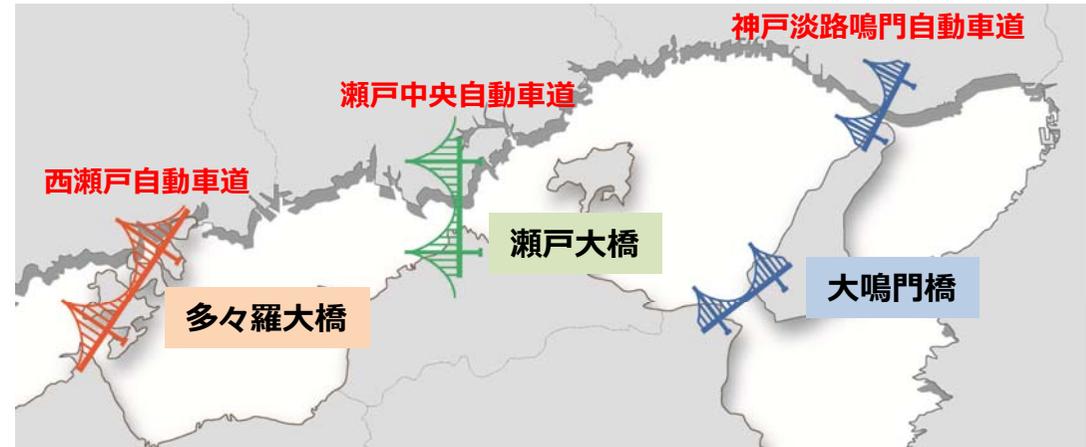
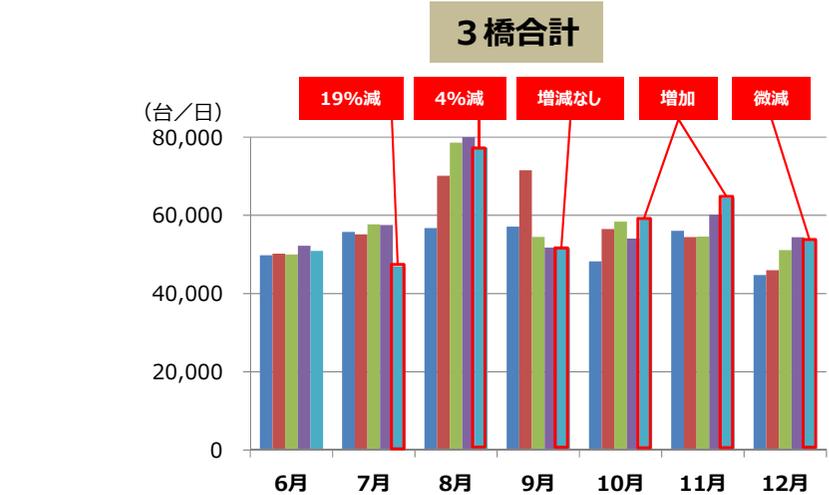
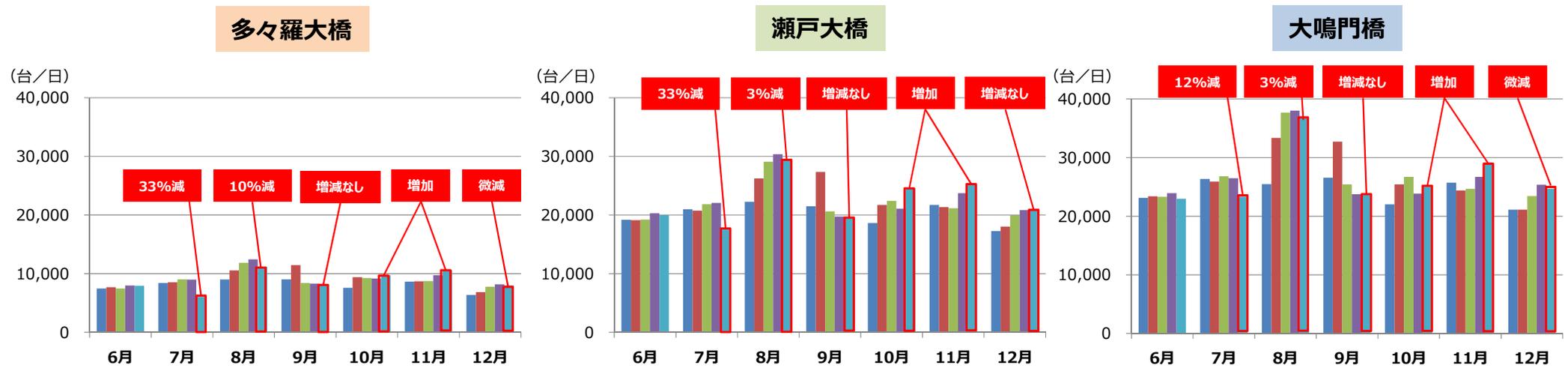
出典）本州四国連絡高速道路株式会社



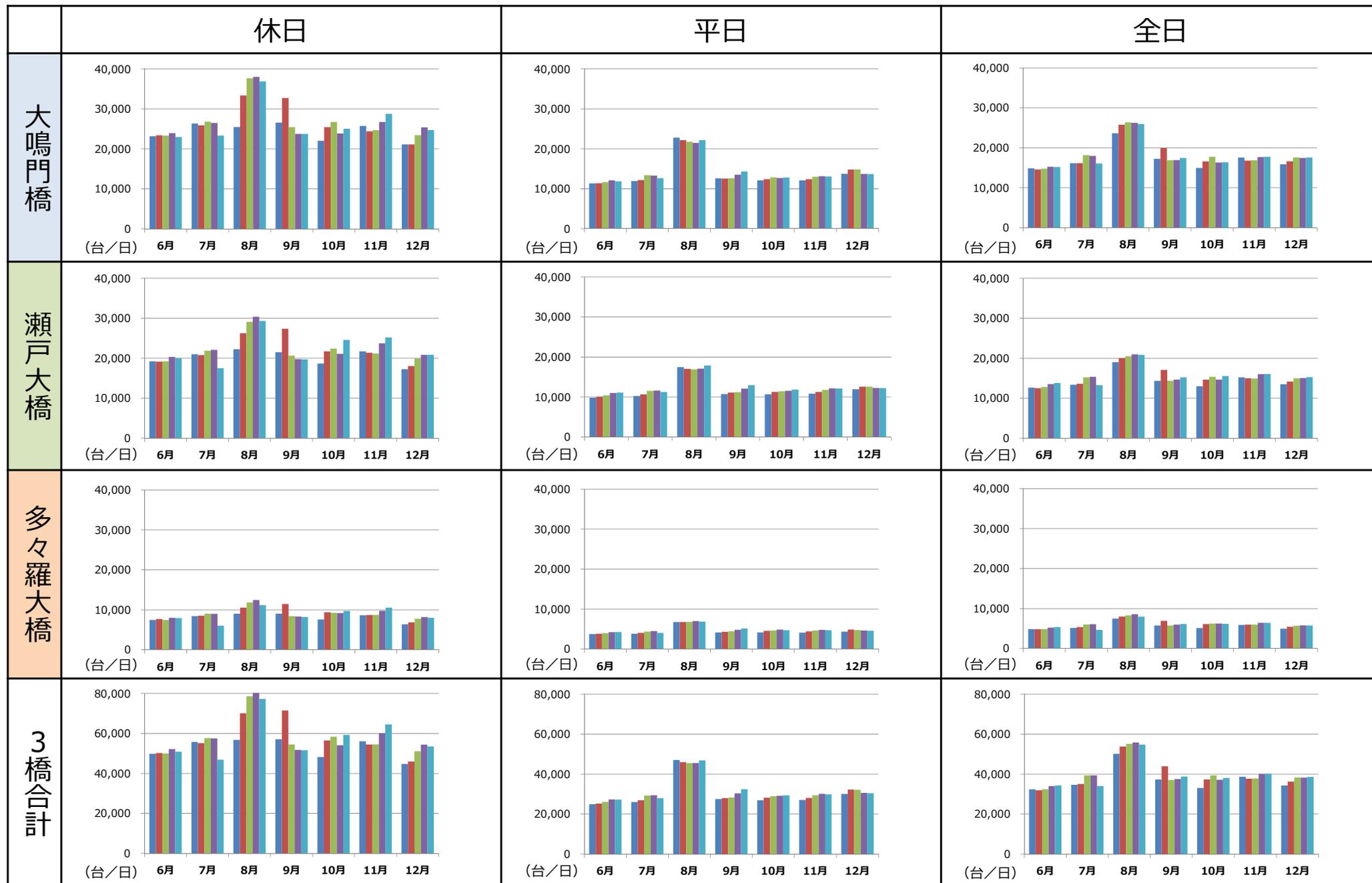
- ◆ **平成30年7月豪雨の発生**により、**7月の観光交通（休日交通）が大きく減少**。
- ◆ 特に被害の大きかった愛媛県・広島県に架かる「**西瀬戸自動車道**」の減少率が大きい。
- ◆ **8月の観光交通（休日交通）も減少**しているが、9月にはほぼ**平年通りに回復**しており、10月、11月は前年より**増加**している。

■ **観光交通（≡ 休日の普通車・軽自動車交通量）への影響を分析**

■ 休日における日平均交通量（普通車・軽自動車）（■:H26 ■:H27 ■:H28 ■:H29 ■:H30） **注：赤枠内は前年比**



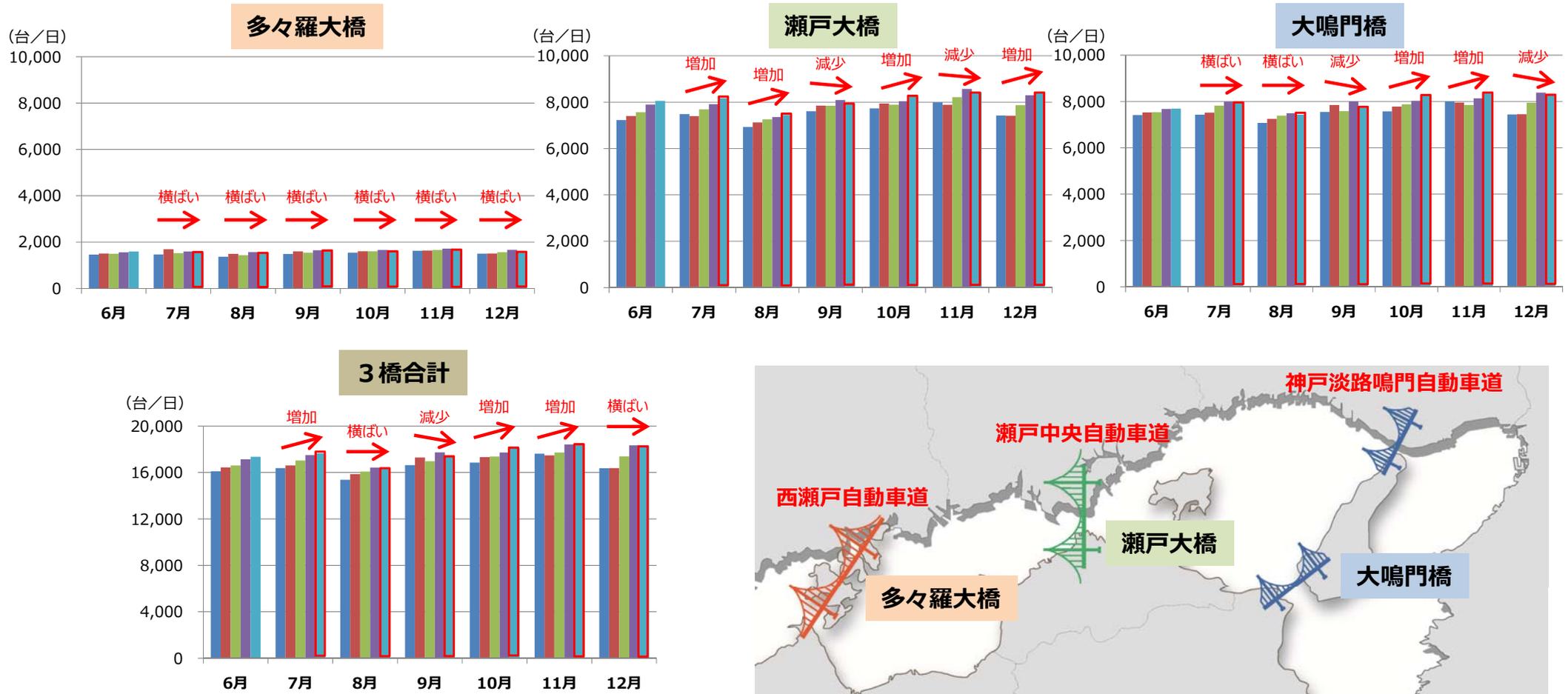
(■:H26 ■:H27 ■:H28 ■:H29 ■:H30)



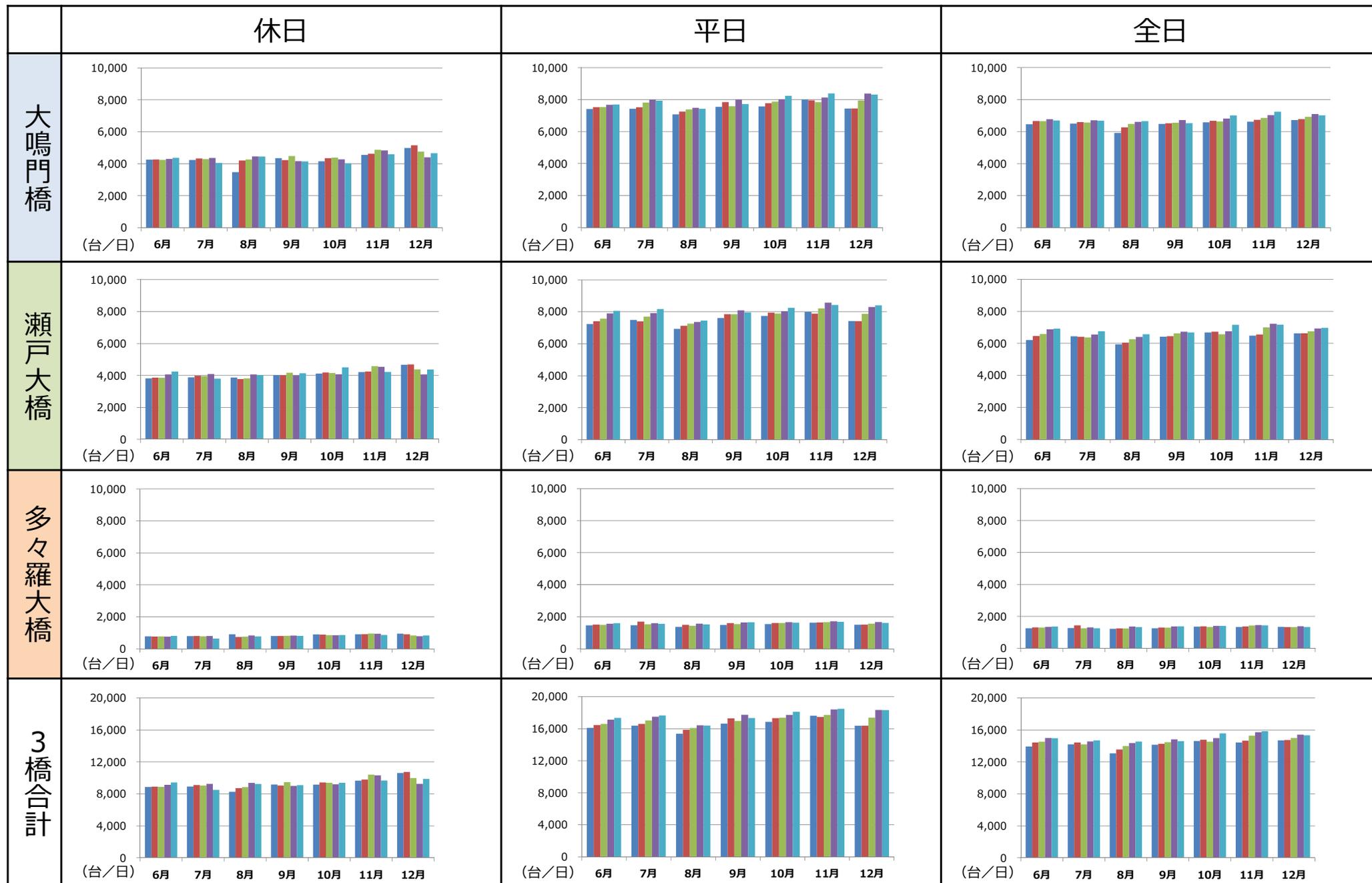
- ◆ 平日を主に利用する物流交通への平成30年7月豪雨による影響は小さかったものと推測できる。「瀬戸中央自動車道」は増加、「西瀬戸自動車道」及び「神戸淡路鳴門自動車道」は横ばいに推移している。
- ◆ 10月以降の物流車両の交通量は、横ばい～増加に推移している。

■ 物流交通（≡ 平日の大型車・特大車・中型車交通量）への影響を分析

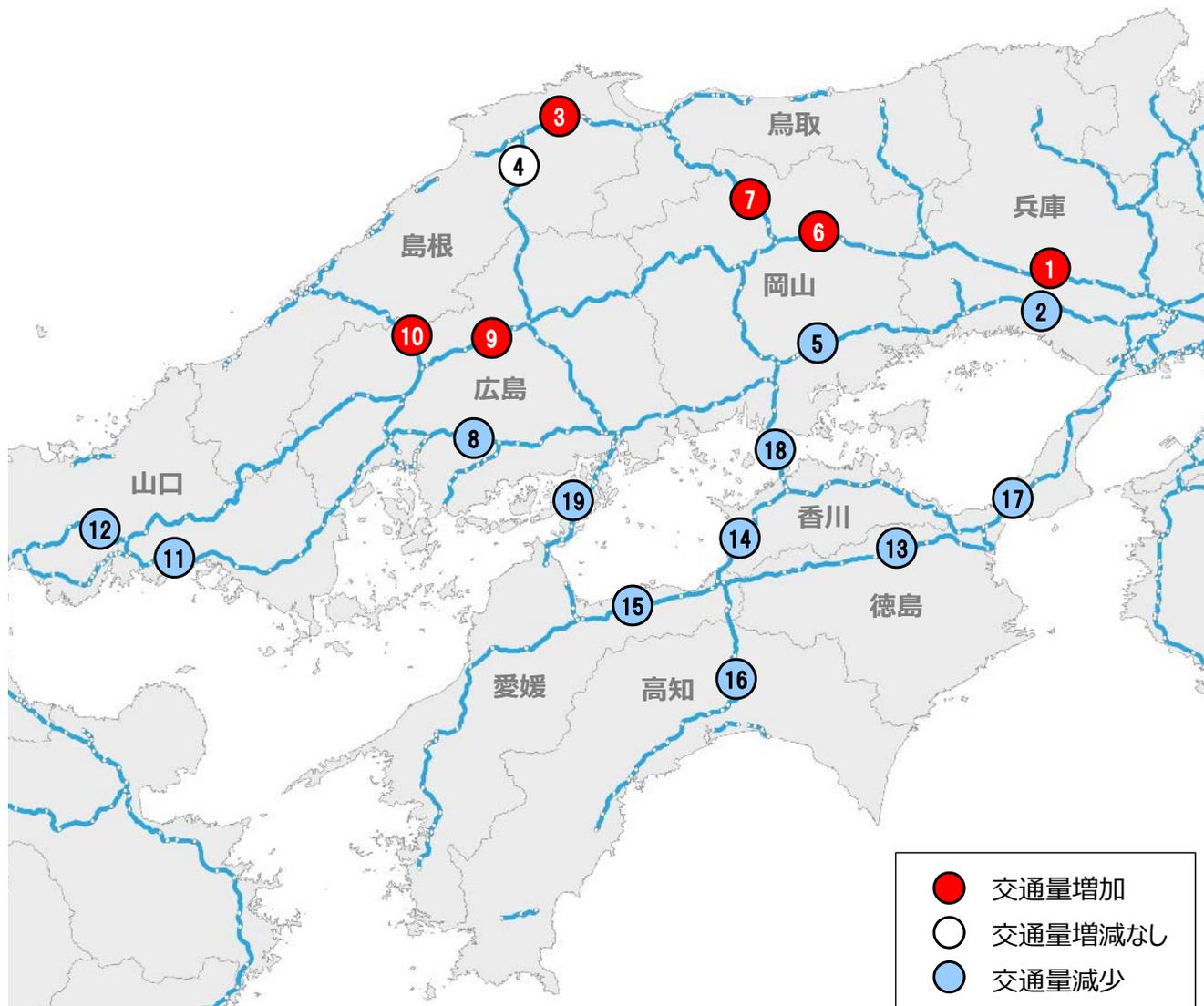
■ 平日における日平均交通量（大型車・特大車・中型車）（■:H26 ■:H27 ■:H28 ■:H29 ■:H30）



(■:H26 ■:H27 ■:H28 ■:H29 ■:H30)



◆ 昨年に比べ中国自動車道以北では増加しているものの、平成30年7月豪雨により被害の大きかった広島県、岡山県、愛媛県、高知県が位置する山陽自動車道以南では減少しており、災害の影響と想定される。



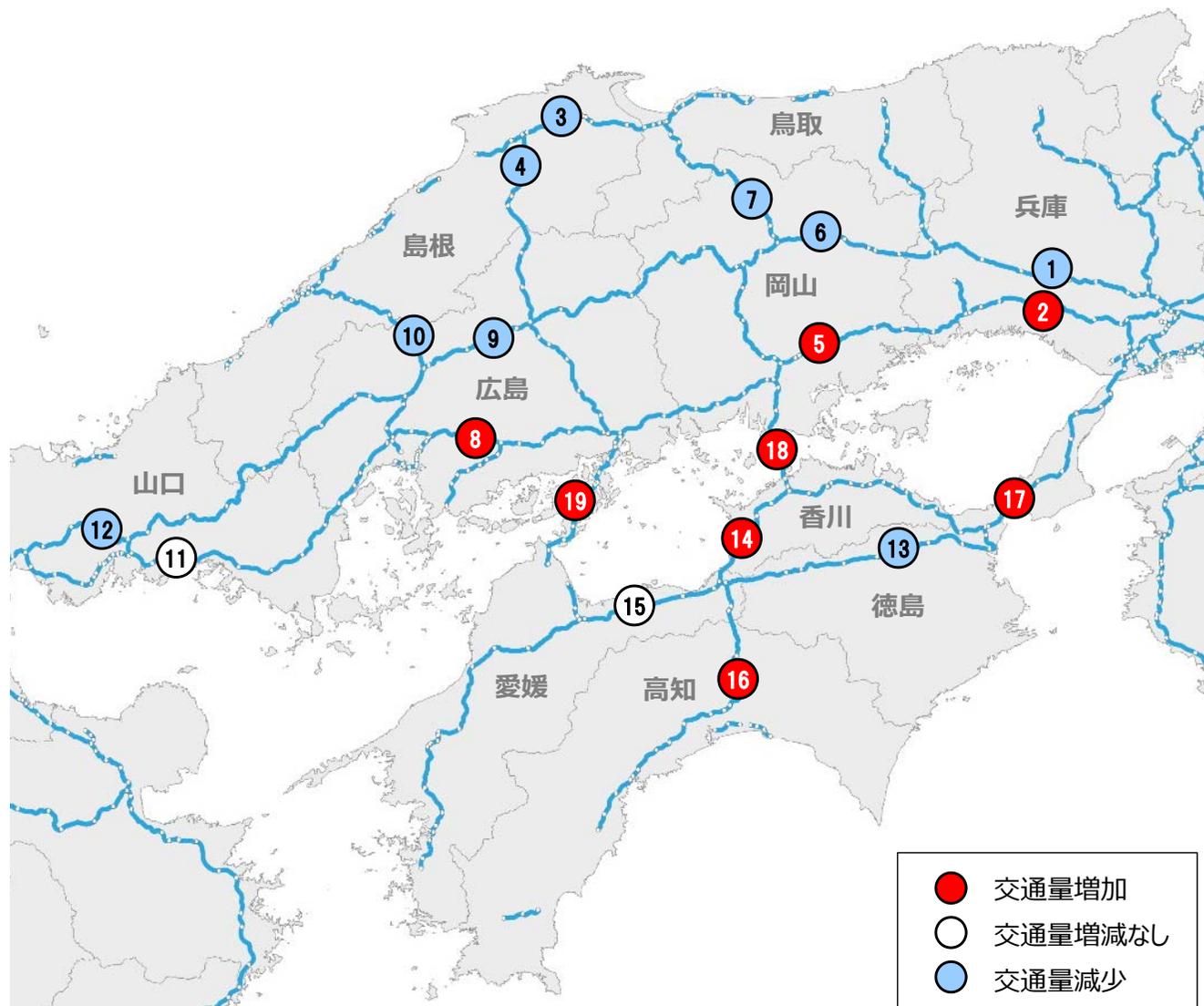
● 交通量増加
○ 交通量増減なし
● 交通量減少

※交通量増減率の全国平均値は、全国の高速道路の主な区間（40区間）の単純平均
H30：47,500台/日
H29：47,500台/日
H30/H29：100%

番号	箇所		交通量（台/日）		前年比 H30/H29
	路線名	区間	H29	H30	
1	中国道	加西～福崎	36,400	37,800	104%
2	山陽道	加古川北～山陽姫路東	64,300	63,700	99%
3	山陰道	松江玉造～宍道	17,700	17,900	101%
4	松江道	三刀屋木次～宍道JCT	8,200	8,200	100%
5	山陽道	山陽～岡山	62,600	61,200	98%
6	中国道	津山～院庄	23,900	24,700	103%
7	米子道	久世～湯原	19,400	19,700	102%
8	山陽道	高屋JCT～西条	65,500	64,200	98%
9	中国道	三次～高田	20,700	21,900	106%
10	浜田道	千代田JCT～大朝	9,700	9,900	102%
11	山陽道	徳山西～防府東	51,000	50,100	98%
12	中国道	小郡～美祢東JCT	46,700	45,900	98%
13	徳島道	土成～脇町	17,300	16,900	98%
14	高松道	さぬき豊中～大野原	35,100	33,500	95%
15	松山道	新居浜～いは西条	30,200	29,500	98%
16	高知県道	大豊～南国	24,300	22,500	93%
17	神戸淡路鳴門道	淡路島南～鳴門北	44,524	43,539	98%
18	瀬戸中央道	児島～坂出北	35,563	34,716	98%
19	西瀬戸道	生口島南～大三島	13,419	12,360	92%

出典：・本州四国連絡高速道路(株)資料
・NEXCO西日本(株)ニュースリリース
「NEXCO西日本管内のお盆期間における高速道路の交通状況（速報）」
期間：・H30.8.8（水）～19（日）の12日間
・H29.8.9（水）～20（日）の12日間

◆ 昨年に比べ、山陽自動車道、本四3ルート、高松自動車道、高知自動車道が増加しており、中国自動車道及び山陰側の路線で減少している、また、四国では2車線区間の徳島自動車道が減少している。



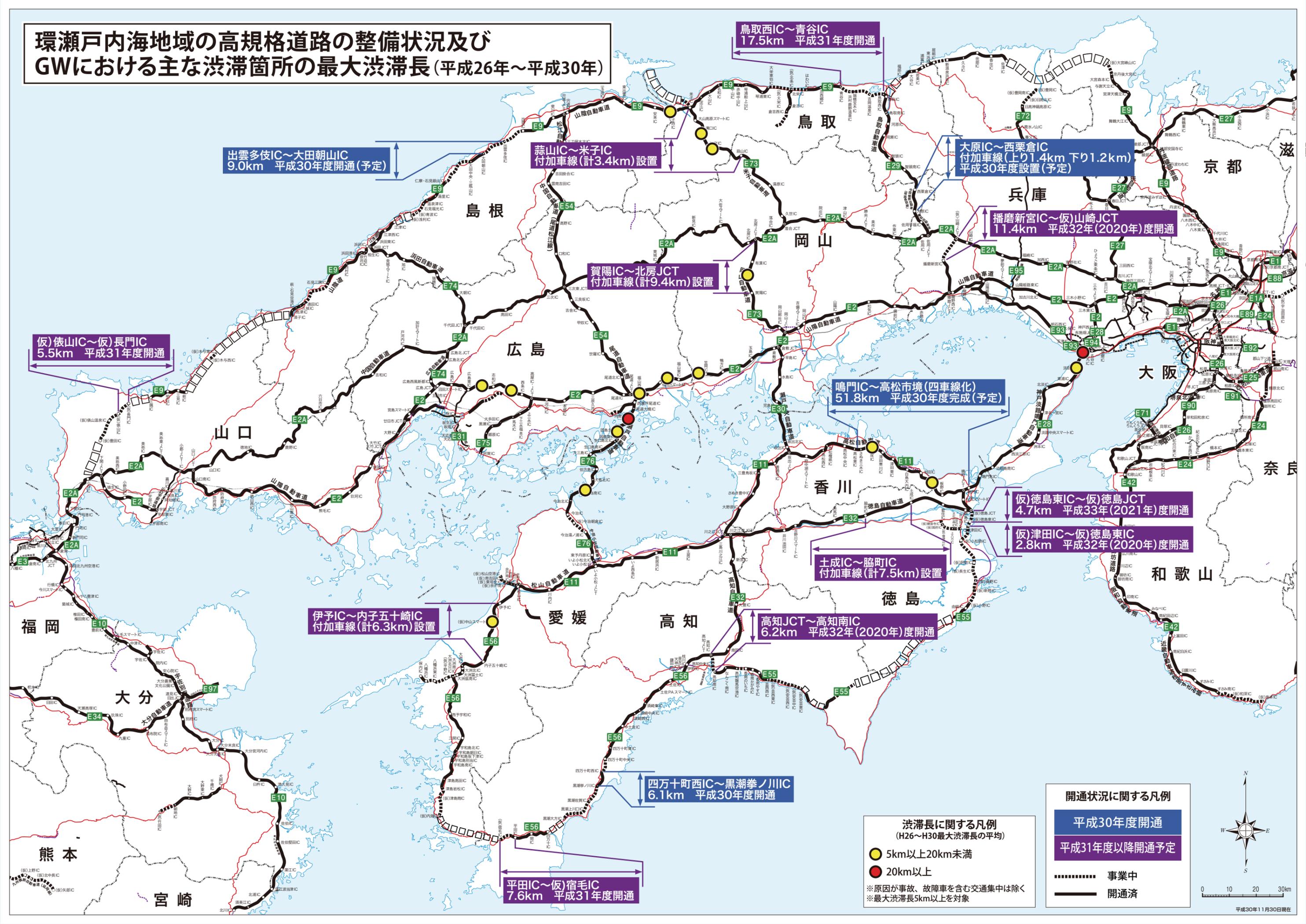
● 交通量増加
○ 交通量増減なし
● 交通量減少

※交通量増減率の全国平均値は、全国の高速道路の主な区間（40区間）の単純平均
 H30：35,800台/日
 H29：36,200台/日
 H30/H29：99%

番号	箇所		交通量（台/日）		前年比 H30/H29
	路線名	区間	H29	H30	
1	中国道	加西～福崎	22,100	21,400	97%
2	山陽道	加古川北～山陽姫路東	52,600	53,500	102%
3	山陰道	松江玉造～宍道	12,800	12,300	96%
4	松江道	三刀屋木次～宍道JCT	5,600	5,500	98%
5	山陽道	山陽～岡山	52,400	52,900	101%
6	中国道	津山～院庄	12,800	12,000	94%
7	米子道	久世～湯原	11,000	10,300	94%
8	山陽道	高屋JCT～西条	53,300	54,500	102%
9	中国道	三次～高田	11,400	9,600	84%
10	浜田道	千代田JCT～大朝	6,200	5,900	95%
11	山陽道	徳山西～防府東	42,200	42,300	100%
12	中国道	小郡～美祢東JCT	36,400	35,800	98%
13	徳島道	土成～脇町	13,300	13,000	98%
14	高松道	さぬき豊中～大野原	30,100	30,300	101%
15	松山道	新居浜～いよ西条	25,900	25,900	100%
16	高知道	大豊～南国	18,100	18,900	104%
17	神戸淡路鳴門道	淡路島南～鳴門北	35,478	36,668	103%
18	瀬戸中央道	児島～坂出北	29,514	30,418	103%
19	西瀬戸道	生口島南～大三島	11,039	11,559	105%

出典：・本州四国連絡高速道路(株)資料
 ・NEXCO西日本(株)ニュースリリース
 「NEXCO西日本管内の年末年始期間における高速道路の交通状況(速報)」
 期間：・H30：H30.12.28（金）～H31.1.6（日）の10日間
 ・H29：H29.12.28（木）～H30.1.6（土）の10日間

環瀬戸内海地域の高規格道路の整備状況及びGWにおける主な渋滞箇所の最大渋滞長(平成26年～平成30年)



出雲多伎IC～大田朝山IC
9.0km 平成30年度開通(予定)

蒜山IC～米子IC
付加車線(計3.4km)設置

鳥取西IC～青谷IC
17.5km 平成31年度開通

大原IC～西粟倉IC
付加車線(上り1.4km 下り1.2km)
平成30年度設置(予定)

播磨新宮IC～(仮)山崎JCT
11.4km 平成32年(2020年)度開通

賀陽IC～北房JCT
付加車線(計9.4km)設置

(仮)俵山IC～(仮)長門IC
5.5km 平成31年度開通

鳴門IC～高松市境(四車線化)
51.8km 平成30年度完成(予定)

(仮)徳島東IC～(仮)徳島JCT
4.7km 平成33年(2021年)度開通

(仮)津田IC～(仮)徳島東IC
2.8km 平成32年(2020年)度開通

土成IC～脇町IC
付加車線(計7.5km)設置

伊予IC～内子五十崎IC
付加車線(計6.3km)設置

高知JCT～高知南IC
6.2km 平成32年(2020年)度開通

四万十町西IC～黒潮拳ノ川IC
6.1km 平成30年度開通

平田IC～(仮)宿毛IC
7.6km 平成31年度開通

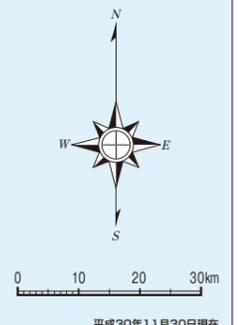
渋滞長に関する凡例
(H26～H30最大渋滞長の平均)

- 5km以上20km未満
- 20km以上

※原因が事故、故障車を含む交通集中は除く
※最大渋滞長5km以上を対象

開通状況に関する凡例

- 平成30年度開通
- 平成31年度以降開通予定
- 事業中
- 開通済



平成 30 年 7 月豪雨等を踏まえた対応について

平成 31 年 1 月
四国運輸局

1. 7 月豪雨からの観光復興の取組

- 四国運輸局は、(一社)四国ツーリズム創造機構と連携し、四国復興キャンペーンを実施。各事業者において、キャンペーンに対応した旅行商品を多数造成。<別添 P2~4>
- 四国 4 県全てを含む 13 府県において、「ふっこう周遊割」を実施。<別添 P5>
各県共通ホームページによれば、1 月 11 日時点で、四国 4 県は徳島県を除き残予算なし。

2. 台風第 21 号及び北海道胆振東部地震への対応

- 訪日外国人への情報提供の面で、次のような課題が経済化。
 - ・ JNTO ホームページ等各種情報発信手段の認知度不足
 - ・ 停電により案内ができなかった観光案内所が多数発生
 - ・ 地方自治体や大使館・領事館との直接的な連携が不十分
 - ・ 公共交通事業者や空港等における情報提供のあり方
- 昨年 9 月 28 日、観光戦略実行推進会議において、「非常時の外国人旅行者の安全・安心確保のための緊急対策」が決定。<別添 P6>
 - ・ いつでもどこでもつながる体制の確立
 - ・ 災害発生時等の鉄道における情報提供
 - ・ 災害発生時等の空港における情報提供 等

3. 今後の取組

年末年始の多客期(昨年 12 月 30 日)に、東北新幹線の車両不具合により東京駅等において大規模な遅延が発生し、訪日外国人旅行者等利用者への情報提供が引き続き課題となっているところ。

四国運輸局においても、これまでの各地の災害等における課題を踏まえ、地方公共団体、関係事業者等と連携して取組を進める予定。

平成30年7月豪雨等を踏まえた対応

平成31年1月21日

四国運輸局

四国観光復興キャンペーンについて

- 四国運輸局と四国ツーリズム創造機構が事務局となり、「旅で四国を元気に」をテーマに、7月豪雨で被災した愛媛・高知両県、さらには四国4県の観光の早期復興を目的に、「四国観光復興キャンペーン」を実施。
- 第1回「四国観光復興会議」を、8月21日、松山市にて開催。
(四国運輸局、四国ツーリズム創造機構(以上、事務局)、四国4県、愛媛県4市町、四国経済連合会、観光事業者13社、宿泊団体3団体、観光団体5団体が参加)

「四国観光復興キャンペーン」取組施策

1. 正確な情報発信

- 四国ツーリズム創造機構WEB特設ページを定期更新し、交通・観光施設の再開状況や見どころ等を掲載

2. 公的プロモーション事業(招請等)を活用した四国観光の発信

- 国費支援事業(DMO事業、VJ事業)関係自治体のご協力により、行程中に四国観光の状況を説明

3. 交通・観光企業による旅行商品造成やイベント実施11

- 観光支援事業費補助金(周遊旅行促進事業)による誘客促進のため、旅行会社の「周遊旅行商品」造成(パッケージツアー)や、交通企業による大都市圏交通施設でのイベント等

4. 四国観光復興プロモーション

- 四国ツーリズム創造機構を中心に、
 - ・商談会等の機会を活用した大都市圏旅行会社などへの四国への誘客促進要請
 - ・ツーリズムEXPO Japan(9/20-23)での四国各県、JR四国、四ツ創等での合同出展
 - ・JR大阪駅での復興キャンペーン実施(JR四国・四ツ創の共催)
 - ・WEB特設ページを通じた消費者向けPR
 - ・統一ロゴやキャッチフレーズの旅行商品への付与 等



<8/21四国観光復興会議>



四国観光復興キャンペーン
旅で四国を元気に

<四国観光復興ロゴマーク>

「四国観光復興キャンペーン」ツアー造成例

●ANAセールス

広島・岡山・愛媛県で使える「食事・観光・体験・おみやげ」クーポン付商品や、「7月豪雨観光支援事業費補助金」活用し割引された宿泊料金に飛行機代金を加えたパッケージ商品を造成。

ANA SALES NEWS 

第 10-013 号
2018 年 9 月 6 日
ANA セールズ株式会社

でかけよう西日本
復興支援キャンペーン旅行商品を9月6日より発売開始

ANAセールズ株式会社（代表取締役社長：高川 純一郎、本社：東京都中央区）は、ANA グループ全体で開催している「でかけよう西日本」キャンペーンと連動した旅行商品、ならびに国から交付される「平成 30 年 7 月豪雨観光支援事業費補助金」を活用した旅行商品を 9 月 6 日より順次販売を開始いたします。



ANA でかけよう西日本キャンペーン商品



旅の応援



四国観光復興キャンペーン

■ANA でかけよう西日本キャンペーン商品

広島・岡山・愛媛県で使える食事クーポン付商品です。「食事・観光・体験・おみやげ」の中から 2 つのお選（選）いただけます。有効期間は 8 日間延長可能です。

商品名：ANA スカイホリデー「でかけよう西日本 広島・岡山・愛媛スペシャル 2 日間・3 日間」
 発売日時：2018 年 9 月 6 日（木）14 時
 対象期間：2018 年 9 月 13 日（木）～10 月 31 日（水）出発
 対象出発地：羽田空港発
 対象乗機：広島・岡山・愛媛
 オプション：移動に便利なレンタカーを販売

■「平成 30 年 7 月豪雨観光支援事業費補助金」活用商品

補助金が適用された最大 2 泊で 12,000 円分お値になった宿泊料金に飛行機代金を加えたパッケージ商品です。3 日間の観光旅行をお楽しみください。

商品名：ANA スカイホリデー「でかけよう西日本 チョイスチョイスプラン 3 日間」
 発売日時：近日発売予定
 対象出発地：羽田空港発
 対象乗機：岡山・広島・愛媛・鳥取・島根・山口・高知
 オプション：移動に便利なレンタカーを販売

以上

ANA セールズ株式会社

広島営業所のお問い合わせ先…経営企画部 広島室（広島・内野） Tel 050-3815-5051

●JR四国

9月13日のJR四国全線復旧から12月初めまでの金・土曜日出発で3日間特急列車自由席乗り放題の「四国全線開通謝恩フリーきっぷ」、JR四国全線フリーきっぷ（2日間特急列車自由席乗り放題）と宿泊（1泊2食付）がセットになった「JR宿泊プラン」等の旅行商品を造成。


四国観光復興キャンペーン
 旅で四国を元気に

四国全線開通
 謝恩フリーきっぷ

有効期間
3日間

9月13日、金・土曜日出発限定！
 前日までの購入で、JR四国全線の
 特急列車自由席が乗り降り自由。

S H I K O K U


四国観光復興キャンペーン
 旅で四国を元気に



JR
宿泊プラン

宿 泊

+

JR四国全線フリーきっぷ 2日間用

でかけよう愛媛 ワンコイン観光バス

●愛媛県、全日本空輸株式会社、株式会社JTB、株式会社伊予鉄グループが連携
「愛媛県」周遊旅行に便利な、1人500円で乗車できるワンコインバス(内子、大洲、宇和島を散策)を10月・11月限定で運行。

観光で西日本を元気に!!

でかけよう愛媛

ワンコイン観光バス

¥500

西日本・四国各地の活性化に貢献するため、「愛媛県」周遊旅行に便利な、お1人様500円で乗車できるワンコインバスを10月・11月限定で運行します。是非、この機会に四国地方にお出かけください。

運行ルート 旅行企画・実施 株式会社JTB

08:00 松山市駅前バスターミナル集合

08:05 大洲 伊予鉄バス一乗車(バス停)

08:15 宇和島 伊予鉄バス一乗車(バス停)

09:05-10:05 大洲 伊予鉄バス一乗車(バス停)

10:30-12:00 大洲 伊予鉄バス一乗車(バス停)

12:30-13:30 大洲 伊予鉄バス一乗車(バス停)

13:35-14:20 大洲 伊予鉄バス一乗車(バス停)

14:25 大洲 伊予鉄バス一乗車(バス停)

14:35-15:05 大洲 伊予鉄バス一乗車(バス停)

16:30 大洲 伊予鉄バス一乗車(バス停)

16:40 大洲 伊予鉄バス一乗車(バス停)

16:45 大洲 伊予鉄バス一乗車(バス停)

※集合場所は詳細は申込時、各旅行会社より案内の書面にてご確認ください。

旅行出発日

2018年10月							2018年11月							
日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	
	1	2	3	4	5	6						1	2	3
7	8	9	10	11	12	13	4	5	6	7	8	9	10	
14	15	16	17	18	19	20	11	12	13	14	15	16	17	
21	22	23	24	25	26	27	18	19	20	21	22	23	24	
28	29	30	31				25	26	27	28	29	30		

お問い合わせ・資料請求先

①掲載商品(JTB旅行商品)を取扱可能な、各旅行会社までお問い合わせください。

②WEBでのお問い合わせ

ANAでかけよう西日本で検索
(WEBは9月28日からの予約開始)

※11月30日までに愛媛を含む2府県以上、合計2泊以上の連続した宿泊または愛媛県に2泊以上の連続した宿泊でふっこう周遊旅行(宿泊割引制度)があります。ぜひこの機会にご利用いただき、愛媛県にお出かけください。

予約URL: <https://fukkou-shuyu.jp>

お問い合わせ JTB松山支店 TEL:089-943-3321 FAX:089-934-6626 営業時間:9:30~17:30(定休日:土日祝・12/30~1/3)

愛媛新聞平成30年10月7日付 愛媛新聞社提供

南予観光 500円玉1枚で 松山 豪雨復興支援バス始動



南予の復興支援へワンコイン観光バスに乗り込む参加者ら—6日朝、松山市湊町5丁目

豪雨で被災した南予への誘客促進へ、松山発着で南予を周遊する500円のワンコインバスの出発式が6日、松山市室町1丁目の伊予鉄バス松山室町営業所であり、関係者が観光客の回復につなげようと意気込んでいる。(1面参照)

バスは、県と全日本空輸、JTB、伊予鉄グループが連携し10、11月に計13便を運行する予定で、ガイドが案内しながら内子や大洲、宇和島の観光地を巡る。5日時点で約8割の予約があり、完売の日もあるという。式で田中英樹・県経済労

働部長が「従来と同じぐらいの観光客に来てもらい、消費してもらうことが最大の復興の後押しになる。南予は元気だと内外にアピールし、観光客の回復・拡大につなげたい」と意気込んでいる。

企画を提案した五十嵐修・全日本空山支店長が「南予の復興に頑張ってもらいたい」と述べた。

バスの前面には「観光で西日本を元気に でかけよう愛媛」と表示。松山市新浜町の無職川内元子さん(84)は「ボランティアができる年齢ではないが、出掛けて買い物をする事で違う意味の復興支援ができると思う。望遠鏡も持ってきており、斜面など遠方まで被災地の現状を見たい」と話し、バスに乗り込んだ。

(丸岡裕美)

- 深刻な影響を受けた風評被害を払拭し、被災地域における旅行需要を喚起するため、周遊旅行に対する宿泊料金の低廉化の支援対象に、四国訪問の窓口となる徳島県及び香川県を追加。

地元のニーズを踏まえた運用の大幅な改善

※被災自治体等と調整が付き次第直ちに実施

○ 周遊旅行の促進(平成30年8月3日閣議決定時)

平成30年7月豪雨により、災害救助法の適用を行った11府県(岐阜県、京都府、兵庫県、鳥取県、島根県、岡山県、広島県、山口県、愛媛県、高知県、福岡県)のうち、夏期に家族連れや外国人等が周遊旅行する可能性が高い観光地であり、今回の災害における被害が少ないものの、風評被害が生じるおそれのある地域(道後温泉、宮島、倉敷美観地区等を想定)において、「二県以上・二泊以上」の宿泊をした場合に、宿泊料金を一定程度支援
 ※岡山・広島・愛媛では一人泊あたり6,000円、その他の府県では4,000円を割引

1 周遊旅行に係る「2府県以上・2泊以上」の要件を「2泊以上」に緩和 四国のゲートウェイになる2県を支援対象に追加

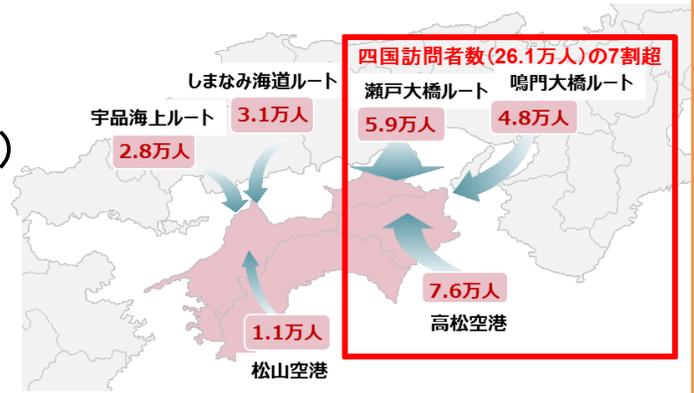
➡ 1府県でも2泊以上宿泊した旅行者に対して支援が可能に

2 四国への訪問窓口となる徳島県・香川県を支援対象に追加 (予備費266百万円を追加)

➡ 四国を周遊旅行する旅行者に対して支援が可能に (※徳島・香川では一人泊あたり4,000円を割引)

3 旅館・ホテルで直ちに割引を適用する運用の徹底

➡ 旅館・ホテルの宿泊精算時にその場で割引を行うことで、外国人旅行者客も含め利便性が大幅に改善



※ 熊本同様、外国人を含めた旅行者数の回復の状況などを見ながら、追加の措置を検討することとする。

- 災害等の非常時においても外国人旅行者が安心して日本を旅行できるよう、JNTOコールセンターの365日、24時間の多言語対応体制の確立など、様々な場面における外国人旅行者の情報入手手段の多重化を図る。

いつでもどこでもつながる体制の確立

- **JNTOコールセンター**について、あらゆる手段で周知に努めつつ、**365日24時間、英語・中国語・韓国語できめ細かい相談対応ができる体制を確立**【10月中に新体制に移行】
あわせて、災害時の問い合わせの集中にも対応するため、**自動案内機能を整備**【10月中に契約手続、今年度中にサービス開始】
- JNTOアプリとSafety tipsアプリの機能統合により、**災害発生情報のプッシュ通知拡大や災害時ガイダンス機能の強化**【10月から逐次プッシュ通知する災害情報等を追加し、今年度中に機能拡充完了】
- JNTO認定観光案内所について、**非常用電源や携帯電話充電機器の整備等の支援**による業務継続能力の強化【10月1日にも補助金の要望書受付開始】
- JNTOのウェブサイトや**公式SNS（Facebook、Twitter、微博（ウェイボー）、微信（ウィーチャット）等**により、外国人旅行者の出身国に応じた多言語での**きめ細かい災害関係情報の発信**【直ちに周知強化、JNTO本部Twitterを新規立ち上げ】

災害発生時等の鉄道における情報提供

- 新幹線において、**既存の通信設備で遅延発生時の車内英語放送（音声・テロップ）は可能であり、今後積極的に実施するよう乗務員等の訓練・意識喚起の実施**【速やかに実施】
- 新幹線等の**駅改札口・券売機・きっぷ売り場等**における**外国語での運行情報掲出の徹底・強化**【速やかに実施】
- 東海道新幹線について、スマートフォンやタブレットを活用した**車内・駅での英語情報提供の充実**【直ちに試行、平成31年度中に本格導入】及びウェブサイトにおける**列車走行位置・遅延情報等のリアルタイム・多言語での提供**【今年度中にサービス開始】

災害発生時等の空港における情報提供

- **多言語（特に中国語・韓国語）対応可能な空港会社職員の新規雇用・研修、BCPや災害支援協定等に基づく航空会社、テナント等の空港内関係機関の職員の協力体制の構築等**
- 十分な数の**携帯電話充電専用機器や多数個口電源タップ、モバイルバッテリーを確保**
【いずれも関西国際空港、新千歳空港を含む主要7空港で年内に実施、速やかに他の国際線就航空港へ展開】

訪日外国人旅行者受入環境整備 緊急対策事業等

平成31年1月21日

四国運輸局

訪日外国人旅行者受入環境整備緊急対策事業

観光庁(参事官(外客受入担当)): 5,474百万円

○全国各地の観光地において、訪日外国人旅行者がストレスフリーで快適に旅行できる環境を整備するため、地方自治体や民間事業者等が行う外国人観光案内所の機能強化、トイレの洋式化、公共交通機関の移動円滑化、旅館・ホテルのバリアフリー化等の個別の取組を支援する。あわせて、外国人観光案内所等の災害等における非常時の対応能力の強化を図る。

地方での消費拡大に向けたインバウンド対応支援事業

- 外国人観光案内所等の整備・改良等及び災害等の非常時対応の強化
- 公衆トイレの洋式便器の整備及び機能向上
- 手ぶら観光カウンターの機能向上
- 多様な宗教・生活習慣への対応力の強化 等

・外国人観光案内所等の整備・改良等及び災害等の非常時対応



・公衆トイレの洋式便器の整備及び機能向上



・手ぶら観光カウンターの機能向上



・多様な宗教・生活習慣への対応力の強化



宿泊施設インバウンド対応支援事業

○基本的ストレスフリー環境整備

- ・Wi-Fiの整備
- ・案内表示の多言語化
- ・決済端末の整備



・自社サイト多言語化等



・ムスリム受入マニュアル作成



○バリアフリー環境整備

- ・トイレのバリアフリー化
- ・手すりの設置
- ・段差解消(エレベーター等)
- ・出入口の改修



交通サービスインバウンド対応支援事業

- 多言語表記、多言語案内用タブレット端末の整備
- 旅客施設や車両等の無料Wi-Fi整備
- 旅客施設や車両等のトイレの洋式化及び機能向上
- 全国共通ICカード、QRコード決済等の導入
- 旅客施設や車両等の移動円滑化 等

・多言語表記等



・多言語案内用タブレット端末等の整備



・無料Wi-Fiの整備



・トイレの洋式化及び機能向上



・全国共通ICカード、QRコード決済等の導入



・移動円滑化



実証事業

- 災害発生時における外国人観光案内所の初動対応マニュアルの作成
- ナイトタイムエコノミー等の新たなニーズに対応した交通サービスの推進に向けた調査 等

補助率

定額、2分の1、5分の2、3分の1、4分の1

事業主体

- (1) 地方公共団体(港務局を含む)
- (2) 民間事業者(公共交通事業者等を含む。)
- (3) 航空旅客ターミナル施設を設置し、又は管理する者
- (4) 協賛会等

公共交通利用環境の革新等

観光庁(参事官(外客受入担当)):5,500百万円

○ 地方部への訪日外国人旅行者の誘致の加速化に向け、我が国へのゲートウェイとなる空港・港湾から訪日外国人旅行者の来訪が特に多い観光地等に至るまでの公共交通機関の利用環境を刷新するため、訪日外国人旅行者のニーズが特に高い多言語対応、無料Wi-Fiサービス、トイレの洋式化、キャッシュレス決済対応等の取組を一気呵成に進め、シームレスで一貫した世界水準の交通サービスを実現する。

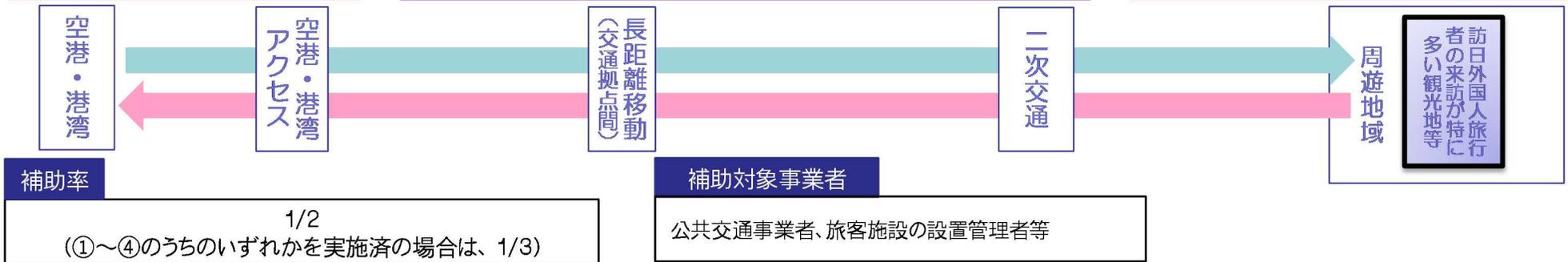
①～④をセットで整備

<p>①多言語対応(事故・災害時等を含む)</p> <p>■多言語標識等 ■スマートフォンアプリの活用等による案内放送の多言語化 ■タブレット端末、携帯型翻訳機、多言語拡声装置等の整備 ■多言語バスローテーションシステムの設置</p>	<p>②無料Wi-Fiサービス</p> <p>■旅客施設や車両等の無料Wi-Fiの整備</p>	<p>③トイレの洋式化</p> <p>■洋式トイレ、多機能トイレの整備</p>	<p>④キャッシュレス決済対応</p> <p>■全国共通ICカードの導入 ■QRコードやクレジットカード対応、企画乗車船券のICカード化 ■企画乗車船券の発行 ■レンタカーのキャッシュレス対応</p>
---	---	---	--

※通常は整備が想定されない場合(例:②無料Wi-Fiサービス(レンタカー等)、③トイレの洋式化(バス、タクシー、レンタカー等)等)については、適用除外とする。
 ※①及び④については、少なくともいずれか1つ実施。

✦ (あわせて⑤～⑦を支援可能)

<p>⑤非常時のスマートフォン等の充電環境の確保</p> <p>■非常用電源装置・携帯電話充電設備等</p>	or	<p>⑥大きな荷物を持ったインバウンド旅客のための機能向上</p> <p>(旅客施設の段差解消) (LRTシステムの整備) (インバウンド対応型タクシー) (インバウンド対応型バス) (荷物置き場の設置)</p> <p>■段差解消やスーツケース置き場の確保</p>	or	<p>⑦移動そのものを楽しむ取組や新たな観光ニーズへの対応</p> <p>■観光列車 ■魅力ある観光バス ■サイクルトレイン</p>
--	----	--	----	--



ICT等を活用した多言語対応等による観光地の「まちあるき」の満足度向上

観光庁(参事官(外客受入担当)): 3,050百万円

○ 訪日外国人旅行者の来訪が特に多い観光地等において、公共交通機関の駅等から個々の観光スポットに至るまでの散策エリアについて、ICTも活用して、多言語案内標識や無料エリアWi-Fiの整備、域内の小売・飲食店を挙げたキャッシュレス決済対応等のまちなかにおける面的な取組や、これらと一体的に行う外国人観光案内所や「道の駅」等の機能強化、古民家等の歴史的資源の活用等を集中的に支援し、「まちあるき」の満足度の向上を目指す。あわせて、観光地の災害等の非常時の対応能力の強化を図る。

■観光地のゲートウェイとしての外国人観光案内所等の機能の強化

○情報発信機能の強化

- デジタルサイネージの整備
- VR機器の整備
- 多言語音声ガイドの整備
- AI・チャットBotの整備 等

○訪日外国人旅行者への対応力の強化

- 無料公衆無線LAN環境の整備
- 多言語翻訳システム機器の整備
- 多言語案内用タブレット端末の整備
- 免税対応端末の整備 等

○外国人観光案内所等の情報提供基盤の強化 ○非常時の対応能力の強化

- 施設の整備改良
- 案内標識の多言語化
- 洋式トイレの整備
- HP・コンテンツ作成
- 案内放送の多言語化
- 掲示物等の多言語化
- 非常用電源装置の整備
- 情報端末への電源供給機器等の整備

地域の観光スポットに基づいた散策エリアと一体的整備イメージ

外国人観光案内所 Wi-Fi 公衆トイレ 各種誘導看板 観光案内板

主要線 副都心線 集中的整備区域

キャッシュレス決済、多言語対応機器の集中整備

■まちなかの周遊機能の強化 (まるごとインバウンド対応)

○まちなかにおける多言語観光案内標識の一体的整備

- ICTを活用した案内標識の整備
- デザインを統一した多言語サイン看板の整備

○無料エリアWi-Fiの整備

- 無料公衆無線LAN環境の整備

○地域の飲食店、小売店等における多言語対応・先進的決済環境の整備

- 多言語翻訳システム機器の整備
- 多言語翻訳用タブレット端末の整備
- 先進的な決済環境の整備
- 免税店電子化対応環境の整備

○公衆トイレの洋式便器の整備及び清潔等機能向上

- 洋式便器の整備及び清潔等機能向上 (光触媒タイルの活用等)

■「道の駅」インバウンド対応拠点化モデル事業

○ レンタカーを利用したインバウンド観光の先進県である沖縄県内の「道の駅」における取組について、全国のモデル事業とすべく重点的に支援

- 外国人観光案内所等の整備・改良等
- 多言語翻訳システム機器等の整備
- 洋式便器の整備及び清潔等機能向上
- 空車・渋滞情報の多言語化
- インバウンド向けの体験メニューの開発

※その他、「道の駅」の管理者、運営者、観光関係者、「道の駅」施設内の民間事業者等からなる協議会により策定される計画の内容を含む。

地域要件

以下を含む、訪日外国人旅行者の来訪が特に多い、又はその見込みがある観光地として観光庁が指定するもの

- 訪日外国人旅行者の評価が既に高い観光地
- 重要な文化財や国立公園が所在する地域
- 国際的なイベント・会議の開催等により、訪日外国人旅行者の来訪が多く見込まれる観光地

補助率 10分の8、2分の1、3分の1

事業主体

- (1) 地方公共団体 (港務局を含む。)
- (2) 民間事業者 (公共交通事業者等を含む。)
- (3) 航空旅客ターミナル施設を設置し、又は管理する者
- (4) 協議会等

■古民家等の歴史的資源を活用した観光まちづくり

文化財・国立公園の周辺地域における歴史的資源のインバウンド整備を支援

- 歴史的観光資源の高質化
- シェアサイクルの導入
- 電線の地中化や軒下・裏配線等の無電柱化
- 古民家等の観光資源化

広域周遊観光促進のための 観光地域支援事業等

平成31年1月21日

四国運輸局

広域周遊観光促進のための観光地域支援事業

観光庁(観光地域振興課): 1,391百万円

○ 訪日外国人旅行者等の各地域への周遊を促進するため、調査・戦略策定からそれに基づく滞在コンテンツの充実、広域周遊観光促進のための環境整備、情報発信・プロモーションといった、地域の関係者が広域的に連携して観光客の来訪・滞在促進を図る取組に対して総合的な支援を行う。

支援制度

・補助対象事業：

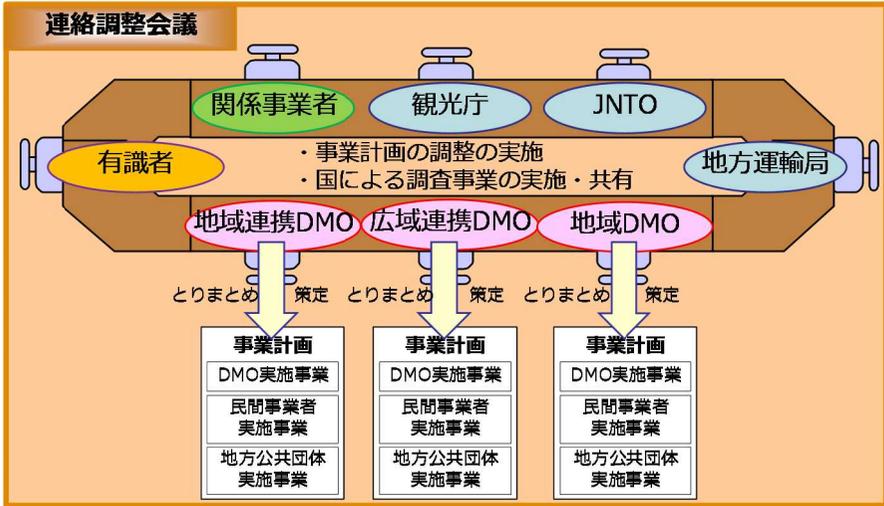
各DMO策定の事業計画に位置づけられた訪日外国人旅行者の誘客を目的とする以下の取組（ただし、地方ブロック毎に開催される連絡調整会議における調整を行ったものに限る）

※DMO（観光地域づくりの舵取り役）：Destination Management/Marketing Organization

- ①調査・戦略策定
- ②滞在コンテンツの充実
- ③広域周遊観光促進のための環境整備
- ④情報発信・プロモーション

具体的な支援イメージ

<p>データに基づき、訪日外国人旅行者に対して訴求力のある各種取組を実施するための調査・戦略策定に係る取組に対して支援。</p>  <p>マーケティング調査</p>	<p>調査結果や策定された戦略に基づき、訪日外国人旅行者の滞在の促進に繋がるコンテンツの充実に係る取組に対して支援。</p>  <p>クルーズ船を活用したコンテンツの開発</p>	<p>滞在コンテンツの充実とあわせて、エリア内での周遊を促すための環境整備に係る取組に対して支援。</p>  <p>二次交通検索サイトの整備</p>	<p>調査結果や策定された戦略に基づき、エリア内のコンテンツの魅力や周遊を促すための受入環境に関する情報の効果的な発信に係る取組に対して支援。</p> 
---	---	---	---



・補助対象者：

事業計画に位置づけられた事業の実施主体
 （訪日外国人旅行者のニーズに応える取組を行うDMOその他民間事業者、地方公共団体）

・補助率：

定額（調査・戦略策定）
 事業費の1/2（滞在コンテンツの充実、広域周遊観光促進のための環境整備、情報発信・プロモーション）

※継続事業については2年目:2/5、3年目:1/3

地域の観光戦略推進の核となるDMOの改革

観光庁(観光地域振興課):2,296百万円

- 全国各地で世界的な競争力を有する魅力ある観光地域づくりを促進するため、①全国の優良なDMOの体制を強化し、世界水準のDMOの形成を促進するとともに、②国とDMOが連携し、訪日グローバルキャンペーンに活用できる優良なコンテンツの造成を推進する。

【1】DMOの体制に対する支援

世界水準のDMO形成促進事業

【事業内容】

インバウンドに対応したマネジメント体制が確立されたDMO(※)を対象に、以下の支援を実施。

- ※観光資源の所有者、宿泊事業者、アクティビティー等の事業者、旅行会社、交通事業者等のディスティネーションの関係者が体制に含まれていること。
- ※安定的かつ自立的な経営の確保が行われていること。

- ①インバウンドにより地域全体の経済効果を高めるための投資戦略やビジネスモデルを確立するための外部専門人材の登用
- ②OJT派遣や視察による中核人材の育成

補助対象：DMO 補助率：定額（①上限1,500万円、②上限500万円）

DMOが重点的に求められる専門性

外国人旅行者に選好される
魅力的なコンテンツの開発・強化

訪日外国人旅行者が快適かつ安全に
周遊・滞在できる受入環境の整備

※地域の関係者による計画策定や
役割分担が行われていることが要件

JNTOが専門性を発揮した上で、それを補完する
役割を担う観点から求められる場合の副次的な専門性

- ・インバウンドに関するデータ分析・誘客戦略の策定
- ※事業内容について、JNTOの確認を受けるとともに、JNTOと連携して実施することが要件
- ・国外向けの戦略的な情報発信・プロモーション
- ※プロモーション方針についてJNTOの確認を受けることが要件

【2】DMOと連携したコンテンツ造成の取組に対する支援

訪日グローバルキャンペーンに対応したコンテンツ造成事業

【事業内容】

訪日グローバル・キャンペーン(JNTO)に対応したコンテンツが、特に地方部をはじめとして、**全国的に不足している**状況を踏まえ、地方運輸局とDMOが連携して、訪日グローバルキャンペーンに活用できる**新たな滞在型コンテンツを全国各地域に創出**することが必要であることから、以下の取組を実施。

- ①事業対象の地域資源に関する調査
- ②地域資源を活用したコンテンツの企画・立案
- ③モデルツアーの実施

実施主体：地方運輸局(DMOと連携)

【想定されるコンテンツ例】



フットパスツーリズム

【概要】

- ・里山、石橋、棚田等、日本の昔ながらの原風景を活かし、地域住民と触れ合いながら歩く旅行商品の開発



伝統工芸の体験

【概要】

- ・陶芸などの伝統的な工芸を体験する、地域資源を活かした体験型の旅行商品の開発